

lecture of haborogy
はぼろ学講座

あなたはどれだけ
はぼろのことを知っていますか？

第4回

はぼろ学講座は「羽幌の成り立ち、自然・動物植物、生活・文化を総合的に学び、羽幌町を訪れるお客様にまちを紹介出来る人材を育成すること」を目指しています

8月のはぼろ学講座は、
はぼろの自然と歴史を学びます

第7回ははぼろ学講座は8月10日に「羽幌の自然」というテーマで日本野鳥の会会員、財団法人山階鳥類研究所鳥類標識調査員の有田智彦さんを講師に開催しました。

動物達が行き交う緑の回廊

まず初めは羽幌に生息する動物植物のお話。動物たちのお話は羽幌学講座でも何度か紹介されましたが、今回の講義

では中央6線の防風林に着目しました。中央地区と朝日地区を結ぶこの防風林は、緑の回廊として動物たちが移動するためのルートとして機能しており、そこにはエゾモモンガが生息していたり、エゾエンゴサクの群生地であったりと多様で貴重な自然がまだ残されているようです。

また、この付近では熊が目撃されることが足跡の写真などで紹介され、その食生活や

行動が解説されました。

ママシヤ毛虫などの写真がスライドで映されると、会場から悲鳴があがる場面もありました。

ピッシリ山の神秘に迫る

次は羽幌の秀峰ピッシリ山のお話です。みなさんはピッシリ山がどこにあるかご存知ですか？(クイズの回答は)名前は良く聞くピッシリ山、



- 1 築別の水田で発見された熊の通り道。民家のほんのすぐ側です。
- 2 熊のあしあと。横に置いたタバコの大きさと比べてください。これは若い熊ではないかとのこと。この熊は農作物を荒らすなどの悪さをしていました。
- 3 なかなかお目にかかれない、ピッシリ山の山頂の風景。昭和60年頃の町民登山会の写真です。尾根続きで奥に見える山は熊岳。クイズの①の山です。
- 4 ピッシリ山の8合目付近から望む幻想的な雲海。



有田智彦さん

昔は町内に登山会などもあり頻りに登山客が訪れていたそうですが、現在では年間に20名程度の利用しかないそうです。実際に山頂の風景や山からの眺めをご覧になったことがある方は少ないかもしれません。

さて、この付近では熊が目撃されることが足跡の写真などで紹介され、その食生活や

されており、そのなかで北海道をめざした人たちは苦勞の末渡りました。しかし、すぐに羽幌町に来たのではなく偶然の人との出会いから開拓に入ることになりました。

青山さんは大正11年生まれ84歳ですが、講演の最中椅子に座ることなく演台の前に姿勢よく立ち約2時間にわたり力強く語りかけました。

第9回は9月7日に「炭鉱と鉄道のなりたち」として再び青山芳雄さんを、第10回は9月21日に「にしん場の歴史」として蝦名湾さんを講師にお迎えします。

Q はぼろ学クイズ

これは役場の屋上から山の方角を見た写真です。ピッシリ山はどれでしょうか？

正解は本文の中で



羽幌町のなりたち

8月24日の第8回は「ふるさと歴史散歩・羽幌町のなりたちと文化」として、羽幌町文化財保護委員会委員長である羽幌地方郷土文化史研究家青山芳雄さんを講師にお招きしました。

会津藩士の墓がなぜ焼尻にあるのか、なぜ会津藩がすすんで北方警備についたのか？平村は加賀藩が幕府に秘密にしていた火薬工場でした。そのため出入りが厳しく監視



(左) 羽幌を4度訪れたという松浦武四郎が詠んだ句。
(右) 松浦武四郎が北海道の名付け親であることは有名です。いずれも青山さんの書。



青山芳雄さん

はぼろ学講座のお問い合わせは、町民課までご連絡ください。

☎ 0164-62-1211(内線105)

✉ choumin@town.haboro.hokkaido.jp